



梅雨入りを迎え、空模様の変わりやすい季節になりました。気候の変化とともに、気持ちや生活のリズムも揺らぎやすい時期です。こういう時期だからこそ、結果を急がず、日々を整えることの大切さを改めて感じます。

### 今月の予定

- 下旬～各校期末テスト
- 27日（土）全国テスト  
※小学/中学…全員対象
- 7/初旬～中旬  
成績懇談会予定



### 塾長の弦きブログ

## ●伸びない時期の意味

六月は、不思議な時期です。新年度の慌ただしさが落ち着き始める一方で、思うような手応えを感じにくくなる頃でもあります。

四月には前向きだった気持ちが少し薄れ、五月に続けてきたことにも疲れが見え始める。「頑張っているのに伸びていない気がする」そんな感覚を持つ人も増えてくる時期です。しかし、学びというものは努力した分だけすぐに結果が見えるとは限りません。むしろ、本当に力がついていく時期ほど、本人には変化が見えにくいこともあります。

勉強は、階段を一段ずつ上がるようなものだと思われがちです。けれど実際には、しばらく同じ場所にいるように感じた後、ある時突然、視界が開けるように理解が進むことがあります。

その“見えない準備期間”をどう過ごすかが、後々の大きな差につながっていきます。

特に六月は、周囲と比べて焦りやすくなる時期でもあります。

成績が伸びているように見える人、順調に進んでいるように見える人。

そうした姿を見て、「自分だけが止まっているのではないか」と不安になることもあるでしょう。けれど、人それぞれ理解の深まり方にも、伸びるタイミングにも違いがあります。大切なのは、今すぐ大きな結果を出すことではなく、止まらずに積み重ねを続けることです。また、この時期は、勉強そのものよりも、気持ちの維持が難しくなる頃でもあります。やる気が出ない日もある。集中できない日もある。それは決して特別なことではありません。長く努力を続けていれば、誰にでも波はあります。だからこそ必要なのは、完璧を求めすぎないことです。毎日百点の頑張りを続けることではなく、調子が良くない日でも、完全には止まらないこと。短い時間でも机に向かう。一問だけでも解いてみる。そうした小さな継続が、あとから振り返ったときに大きな意味を持ちます。

保護者の皆さまにとっても、この時期は子どもの変化が気になりやすい頃かと思えます。以前より集中できていないように見えたり、気持ちが緩んでいるように感じたりすることもあるでしょう。

しかし、それは成長が止まったということではありません。見えないところで試行錯誤を繰り返しながら、少しずつ前に進もうとしている時期でもあります。子どもは、「うまくいっていない時に、どう見守られていたか」を、意外なほどよく覚えています。結果だけで判断せず、今取り組んでいる過程を見つめてもらえることが、次へ進む力につながることも少なくありません。そして、これから迎える夏は、そうした積み重ねが少しずつ形になり始める時期でもあります。長い休みの時間をどう使うかによって、その後の伸び方は大きく変わっていきます。夏期講習や夏季合宿も、単に勉強時間を増やすためだけのものではありません。仲間と共に努力し、「ここまでやれる」という経験を積み重ねる、大切な時間です。伸びないように感じる時期にも、意味があります。すぐに結果が見えない時間の中で人は「続ける力」を身につけていきます。焦らず、比べすぎず、今できることを積み重ねていくこと。その時間は、きっと次の成長へとつながっています。